



松戸市立第一中学校 みらい分校だより

たいけんにゆうがく

体験入学

～後期入学に向けて～

松戸市には、1万7千人以上の外国人市民*が生活しています。約30人に一人の割合です。今後さらに増えていくのではないかとおられます。日本人市民と外国人市民が互いにさまざまな価値観を認め合い、ともに学び、ともに働き、安心して暮らすことのできる地域作りが求められています。*令和4年10月末現在17,791人

さて、今日で後期入学のための体験期間が終わりました。外国にルーツを持つ3名の方が参加しました。実際の授業や生徒同士の交流などを通して、多様性を大切にするみらい分校の良さを少しでも感じていただけたうれしいです。後期入学式は、10月10日(火)です。



日本語力確認



数学授業

あめ ま

雨二モ負ケズ

～君たちはどう生きるか～

今年には詩人の宮沢賢治が亡くなって90年になるということを知りました。有名な詩「雨二モ負ケズ」を紹介します。

「精一杯生きること」「欲望をコントロールすること」「自然と共に生きること」「自分の力を他人のために役立てること」・・・、どんなに時代が移り変わっても、私たちが大切にしなければならないメッセージが込められているのではないかと思います。

あめ ま 雨にも負けず 宮沢賢治

あめ ま 雨にも負けず かせ ま 風にも負けず ゆき なつ あつ ま 雪にも夏の暑さにも負けぬ じょうぶなからだをもち

よく けつ 決していからず いつも静かに笑っている

いちにち げんまいよんごう み そ すこ や さい 一日に玄米四合と 味噌と少しの野菜をたべ あらゆることを 自分をかんじょうに入れずに

よく見聞きしわかり そして忘れず 野原の松の林のかげの 小さなかやぶきの小屋にいて

ひがし びよう き こども い かんびよう 東に病気の子供あれば 行って看病してやり

にし つか はは い いね たば お 西に疲れた母あれば 行ってその稲の束を負い

きた そしやう 南に死にそうな人あれば 行ってこわがらなくてもいいといい

きた けんかや しょう 北にけんかや訴訟があれば つまらないからやめろといい

ひでりのときは 涙を流し 寒さの夏はおろおろ歩き

みんなにデクノポーとよばれ

ほめられもせず くにもされず そういうものに 私はなりたい

